

第3回水戸市総合企画審議会 会議録

- 1 附属機関の会議の名称
第3回水戸市総合企画審議会
- 2 開催日時
令和5年1月20日（金）午前10時00分から午前11時45分まで
- 3 開催場所
水戸市役所本庁舎4階 政策会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員
加藤高藏，黒木勇，首藤敦子，関育夫，竹中大介，富田教代，原口弥生，百武幸子，平田輝満，平松良崇，福島辰三，保立武憲，村井道男，横須賀聡子，綿引健
 - (2) 執行機関
田尻充，小田木健治，宮川孝光，小野瀬嘉行，宮川善行，須田秀人，深作毅史，徳田恭子，平野孝典，宮窪千恵
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 水戸市第7次総合計画基本構想・骨子「素案」について（公開）
 - (2) 市民参加による提案・提言及び職員提案等について（公開）
 - (3) 水戸市第7次総合計画策定スケジュールについて（公開）
 - (4) その他（公開）
- 6 非公開の理由
なし
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。）
なし
- 8 会議資料の名称
資料1－① 水戸市第7次総合計画策定に当たっての基本的な考え方
資料1－② 水戸市第7次総合計画基本構想・骨子「素案」
資料1－③ 第2回総合企画審議会における意見等について
資料2－① 市民参加による提案・提言及び職員提案等について
資料2－② 市民参加による提案・提言及び職員提案等一覧
資料3 水戸市第7次総合計画策定スケジュール

9 発言の内容

【執行機関】定刻になりましたので、ただいまから第3回水戸市総合企画審議会を開催させていただきます。本日は、御多用の折にもかかわらず、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは会長に議事の進行をお願いいたします。___会長、よろしくお願いいたします。

【会長】皆さんおはようございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

議事に先立ちまして、本日御欠席の委員の方がいらっしゃいますので御報告いたします。

___委員、___委員、___委員、___委員、___委員から、所用のため欠席との連絡を受けております。また、本日の会議録署名人につきましては、___委員と___委員にお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。

本審議会は原則公開となっておりますが、本日の会議の傍聴者は0人ということです。

事前に資料等が送られているかと思えますけれども、水戸市第7次総合計画基本構想・骨子「素案」については、前回の審議会でたくさんの御意見がありましたので、それを踏まえながら肉付けの作業を進めております。本日はその部分を中心に皆様から御意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議事に入ります。初めに、(1)水戸市第7次総合計画基本構想・骨子「素案」について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局説明)

【会長】ありがとうございました。総合計画ですので、あらゆる分野の施策を網羅する計画であることを前提としつつも、最重要の取組をこどもたちを育むこととし、あわせて、経済発展、安心の三つの取組の好循環を作り出すという特徴について、明確に打ち出すということでした。

ただいまの説明について、御質問、御意見がありましたら、手元のマイクのスイッチをオンにして、御発言をお願いいたします。

【___委員】資料1-②8ページ、都市空間整備構想の件なのですが、水戸らしい地域拠点ネットワーク型コンパクトシティを構築するということなんです。8ページでは公共交通ネットワークによって連携を強化するという部分をうたっています。前回も意見を述べさせていただいたかと思いますが、例えば、富山市であれば、公共交通を作り上げて、その公共交通の近辺に居住空間や商業施設を設けていくという、行政が具体的に集積していく手法を取り入れています。今回骨子として、文言でうたわれていることは良いのですが、もう少し具体化していかないと。第6次総合計画でも、同じようなものがあつたのですが、それが実現していかないという、そういう反省点も踏まえて、もう一歩行政として、人を誘導していく施策を、時間をかけて組み込んでいくという考えはこの文言の中に入っているのか、お伺いしたいと思います。

【執行機関】水戸らしい地域拠点ネットワーク型コンパクトシティを形成するに当たりましては、都市核とそれぞれの拠点を結んでいくという部分が非常に重要になります。具体的な施策とい

うこととありますが、第6次総合計画においてもこのネットワークづくりを進めてきたところでありまして、今後基本計画におきましても、新たな施策も含めて検討し、位置付けを図っていきたくと考えてございます。

【___委員】 やっぱり行政の誘導施策がないと、そういうところに暮らそう、事業所を設けていこうという誘導施策というのは、行政が文言でうたっただけではなかなか集積できなかったという反省点も踏まえて、次の計画ではどうしていくのか。例えば横浜市のまちづくりなんかは昭和の時代に、行政が主体的になってまちをつくっていき道路を広げていった。今、道路を広げようと思ってもなかなかできないですけれども、具体的に何をもってこのコンパクトなまちをつくらうとしていくのかという具体策にも進んでいただかないと。文言でうたっただけで終わってしまうことがないようにしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【会 長】 ありがとうございます。公共交通などは、個別の施策等があつて、そこで目標とKPIなどが設定されるかと思ひます。それよりも今回はもう少し大きな枠組の部分ですが、できるだけ具体的な目標があつた方がよいのではないかとということで、よろしいでしょうか。御回答があればお願いします。

【執行機関】 このネットワーク型コンパクトシティは、第6次総合計画から続く都市核や拠点の形成の具体的な施策でございますけれども、これまでも都市核や拠点への投資、あるいは道路整備、バス交通への対応といったことを進めてまいりました。今後も、繰り返しになりますが、新たな施策と合わせまして、より市の誘導策が強化されるよう検討してまいります。

【___委員】 今の___委員の御発言には、大変賛同するんですけれども、僕は水戸市にはまだ住んでから10年程で素人です。前回の総合計画でも、コンパクトシティを掲げて施策を進めてこられたのだと理解はしていますが、僕が見た限りはむしろ逆に郊外の開発が進んでいるように見えるし、南の方の逆川周辺の田んぼですかね、この自然を大切にするという水戸らしさが壊されて、急に宅地開発されています。富山市のように交通軸を作ってそこに誘導していくというのと逆で、水戸市が自らかどうかは分かりませんが住宅開発をして、人が新たに住んだところにバスを通して、どんどん無秩序に広がっていると。

もしくは、水戸市都市間競争みたいなことを書かれていて、水戸にどんどん人を呼び込むのは、もちろん都市間競争上は仕方がないと思うんですけれども、やっぱり県都として、水戸だけが良ければ良いという発想は捨てなければいけないし、裏では戦略的にやらなければいけないですけれども。でも例えば、周辺市町村がコンパクトシティを掲げて頑張っていて、水戸市はむしろ、水戸の方が経済力があるから、郊外に開発して周辺市町村から人を呼び込んでくるようなやり方で良いかという、誰も将来的に幸せにならない気もするんですね。

過去の総合計画の施策に対して、当然PDCAによる評価をしてここに至っていると思うんですけれども、その反省が本当に生かされているかというのは、これを見ただけだと見えないし、過去2回の会議での反省を踏まえてこう出てきたのだと思うんですけれども。真摯に反省をして、なぜできなかったのか、今回は本気でやるぞぐらいのメッセージは、この骨子に書いても良いんじゃないかという気はするんですね。今のものを見ると過去とあまり書いてある

ことは変わらないですから、また同じ6、7年が続くんだらうなみたいに、僕は一市民として思っちゃうんですよ。本気でやるのかというところは、メッセージを出さないと、市民の関心もないし、どうせやる気ないんでしょみたいな思われたら負けかなと思うんですよ。そういうメッセージはもうちょっと出ても良いかなというのは思いました。

【執行機関】メッセージ性ということでの御意見でございました。前回の総合計画におきましては「魅力・活力集積型 スマート・エコシティ」という表現でございます。コンパクトシティという表現を今回の計画では強く打ち出しているというところでございます。今後につきましては、新たな施策の検討とあわせ、表現につきまして、少し検討させていただければと思います。

【___委員】今の都市空間整備の件に関して、私も2人の委員さんの御意見に賛成です。やはりメッセージで強く打ち出させていただきたいと思っていましたし、前回の時にも御意見させてもらいましたけれども、既存のものを積み上げていく、新しいものができたところには、状況が違うから新しい設定はしないという、私の質問に対する答弁も出ていますけれども、そういったところも改めて含めて、状況が同じであれば、同じ扱いにしていくという考え方も入れても私は良いと思っておりますので、その辺も含めて再度検討をお願いしたいと思います。

1点お伺いしたいのが、資料1-②1ページ。丸囲みの「こどもたち」と「経済発展」、「安心」というところです。経済発展のところが、前回の資料では「人が活躍できる「経済発展」」でしたが、今回は「豊かな暮らしを実現する「経済発展」」となっています。基本理念の基本的な考え方は一番スタートのところだと思うんですけども、なぜそのスタートのところが3回目になって変わっているのか、その経緯の御説明をお願いします。

【執行期間】基本理念の構成でございますが、まず人の部分が出てきた上で、経済の発展、安心というつながりの循環という構成にしております。この中で最初のこどもたちの育成の部分で、人の部分は重要な点として強調されております。そういうことから、経済の発展ということにはその裏付けとなる豊かな暮らしという点を強調した方が、より分かりやすいのではないかとこのところ、こういった表現に変更させていただいております。

【___委員】はい。ありがとうございます。本当にスタートのページの一番重要なところが変わっているので、その前に説明をいただければ良かった。別にどちらが良いとか悪いとかいう話ではなくて、だんだん進んでいった時に最初と変わってしまうと、整合性が取れなくなるという可能性も出てきてしまうと思いますので、その辺はきっちり御説明をしていただいた上で、今後の展開をしていただきたいと思います。

【___委員】今回の第7次総合計画の中で、将来都市像や発展する商工経済について、水戸は文教都市・水戸と言われ、これからの社会では世界を見通した語学教育とか、交流社会での人間像・都市像というものを作っていかねばいけない。文教都市・水戸としての大学誘致や学生のあり方、将来像としてはどのように捉えているのかというのが第1点です。

第2点は、商工経済ということですが、商工業において都市づくりのためには、人口増を伴

わなければならない。2033年に26万5000人という人口目標でございますが、現段階では人口がどんどん減っていくのではないかと推計が出ている。そのような中で商工業の振興策としての工業団地の捉え方というのは、どのようになっているのかというのをお尋ねしたい。

【執行機関】1点目の文教都市としての水戸でございます。事務局からの最初の説明にもございましたように、水戸市には教育機関等が集積されておりまして、まさに御指摘の通り文教都市の側面が強でございます。今回の総合計画につきましては、こどもにまず焦点を当てながら進めていく総合計画でございます。その中では当然、教育の部分というものが重要なファクターになってございます。御指摘の大学誘致等の施策でございますが、そちらにつきましても具体的な基本計画を作っていく中で、検討してまいりたいと考えてございます。

2点目の工業団地の考え方でございます。人口26万5000人をキープしていくためには、働く場所についても非常に重要な部分であると考えてございます。資料1-②の8ページ、「都市核・拠点への都市機能の集積と連携強化・充実」という点でございますが、文章中の4段落目に地域産業系拠点について触れております。こちらにつきましては産業の発展、集積についての記載でございます。あわせて新たな企業誘致の用地確保策を推進するというところで、基本理念の段階で明確に位置付けて、その施策を推進していくという考え方でございます。

【___委員】拠点整備については、これまでに赤塚駅周辺を第二副都心として、総合計画で位置付けました。今は、常磐線沿線で、内原駅周辺についてもまちづくりが進んでいる。地域経済、地域の発展というのは、やはり駅を中心として整備していかなければならない。

また、そういうことと同時に、茨城県庁周辺についても、拠点整備として、やはり取り組んでいかなければならないのではないかとと思うのですがその点はどうですか。

【執行機関】まず、赤塚につきましては、交通という点も含めて、水戸市が率先してその周辺に居住等を誘導していく地区であるという考えでございます。内原につきましても、地域生活拠点として、赤塚駅周辺と同様に、発展を目指しネットワークでつなげていくという考え方でございます。

県庁周辺の地区のお話でございますが、周辺に住宅地が広がっているという現況はございますが、総合計画におきましては、産業の地域産業拠点としての位置付けをこれまでと同様に踏襲して、水戸市全体の発展を進めてまいりたいと考えてございます。

【___委員】重点的な課題として、こどもを育むということを据えるというお話だったと思います。子育て支援とか、こどもの環境を作るというところにおいて、今は、そのこどもの声を聞くということがすごく広がってきています。前回は申し上げましたように、子どもの権利条約をこどもの政策のベースに据えているところもたくさん出てきている中で、育てるという視点だけというのは、せっかく市長さんから、ぜひ尖った計画をというお話でしたので、もったいないんじゃないかなと思います。

こどもは、大人である私たちが育む存在でもあるけれども、こども自身が育つという存在でもあると概念を捉え直して、こどもたちと一緒に、こどもが生き生きと成長できる環境を作るという視点を持って10年後を見据えた計画を作ることが必要ではないだろうかと思っています。

す。

教育の問題に関しても、大人がよかれと思ったことによって、こどもの将来に思った以上のダメージを与えるということもたくさん報告されています。引きこもりの問題や精神疾患の罹患者数とかを見ても、認知症は人口比に対して発生率はそんなに変化しているわけではないですけど、若者の精神障害は確実に増えているということを考えると、子どもの権利条約を批准している国でもありますし、こどもの声を聞くことをもう一度見直す必要があるのではないだろうかと思っているので、このまち全体でこどもを育むということに、こどもの意見やこどもの視点を入れるというようなことを入れていただきたいと思います。

【執行機関】 こどもを育むという視点と合わせて、こども自身が育つという大きな視点を取り入れてはというお話でございました。こちらにつきましては、基本計画の中で様々な施策を展開している部分、あるいは考え方を述べる部分がございますので、その部分に具体的に書き込むような形で検討していきたいと思います。

【会長】 この次の議題でもあるように、色々な市民参加によって今回の総合計画は作られていきますけれども、参加している若者は大学生や高校でも比較的進学校に近いようなところが入っています。高校にも行けていないようなこどもたちも非常に多いですので、やっぱりそういうこどもたちも含めてこどもを育むということが大事じゃないかという、___委員の御提案だと思います。具体的な計画の中でのことかもしれませんが、これから非常に大事になってくる点だと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

【___委員】 今のこどもたちを育むまちをつくるという点について、私も今日これを改めて見てみてちょっと違和感があって、この基本理念のところについて、「水戸の未来をリードするこどもたちを育むまちをつくる」とするよりは、「水戸の未来をリードするこどもたちが育つまちをつくる」というふうに変えた方がしっくりくるなっているのは改めて思ったので、同じことを感じられたのだなと思いました。

あと、資料1-②の6ページのところで、目標交流人口があるんですけども、(1)と(2)と二つあって、にぎわいの交流人口というのが、いくつかの魅力発信交流拠点やイベントの来場者数を目標にしますということともう一つ、まちなか交流人口というのがあって、これは(1)とはまた別に目標を設定することなのでしょうけれども。まちなかの拠点というのは、具体的には、中心市街地とか都市核とかどこかイメージしているところがあると思うんですけども、どこのことでしょうか。あえてこうやって二つ特定のエリアを目標として設定した方が良いのかというところもあわせてお伺いできればと思いました。

【執行機関】 まちなか交流人口の部分でございますが、12ページの図面をお願いいたします。A3のカラーの図面でございます。こちらは魅力発信交流拠点の候補ということで、市全体の交流拠点の候補を示してございますが、右上に四角で拡大した図面を載せております。こちらのエリアの部分がまちなかの交流の拠点のイメージとなっております。

【会長】 質問なのですが、拡大図の中に、水戸市の市庁舎は入らないのでしょうか。情報発

信拠点ではないかと思うのですが。

【執行機関】交流拠点の考え方でございますけれども、子どもや親子連れや若い世代が楽しめる拠点づくりというような、特にそういった人が集まるような拠点をイメージしてございますので、庁舎についてはちょっとその対象から外れてくるのかなという考えを持ってございます。

【___委員】14 ページの最後ですけれども、市民と行政で「共に創るみと」とありますけれども、その市民とは、事務局ではどういう捉え方をしているのか。多分町内会や自治会、そういった類だと思えますけれども、今、加入率が非常に低くなっていて、50%をもう少しで切っていくような状況でございます。これを解消するための施策が無いのではないかと思いますので、具体的に入れていただければと思います。

市民と行政でと書いてありますので、市の方でその市民とはどのような捉え方をしているかお聞かせ願いたいと思います。

【執行機関】市民の捉え方につきましては、町内会を含めたコミュニティも合わせて共に創っていくという部分でございます。また、それ以外にも個人の活動や色々な立場の活動というものもございます。そういった様々な側面を合わせて共に創っていくという幅広い概念でございます。

また、町内会の加入率の解消策につきましては、こちらにつきましても、個別具体的なお話になりますので、基本計画の中で検討させていただければと思います。

【___委員】「こども育む」というところで、まち全体で育むというメッセージがありますがけれども、やはりこどもがいない方とか、子育てが終わった方については、なかなかこどもを育むという機会というのは恵まれないかなと思っております。まち全体で育むというメッセージに対して、当事者ではないような方に対して、どのようなことをするのかというところが盛り込まれてないので、どちらかというところこどもがいらっしゃる方に目がいってしまうのではないかなと思っておりますが、その点についてどのような考え方かというのをまず1点お聞かせいただきたい。

【執行機関】こちらについては基本理念ということで、こどもを育む視点というのを様々な施策の中に取り込んでいくという考えでございます。こどもがいらっしゃらない方へのアプローチ、意識付けについては、基本理念の段階では掲載されてございませんが、そういった配慮や意識というものは、改めて基本計画の中で検討させていただければと思います。

【___委員】もう1点なんですけれども、13 ページの1 番の「まち全体で「こどもたちを育むみと」の「こどもを生き育てやすい社会の実現」の」ところの部分に含まれてくるのかと思うのですが、やはりこどもというところで言うと、教師や学校自体への負担というのも非常にあって、先生方の就業の問題などもあると思うのですが、そういった対策というのは、今後検討されていくようになっているのでしょうか。どちらかというところと親とかですね、そういったところに目が向いていると、この資料や御説明をいただいて感じたので、その辺をお聞かせいただければ。

【執行機関】ただいまの御質問でございますが、まず子育て施策につきましては、第一にはこどもという視点があると思います。次には子育てをされている方への施策という部分になってきまして、また教育の部分も、子育てをするという中で重要なポイントになると考えてございます。当然、先生方の環境が良くないものであれば、良い教育につながっていかないということもございますので、環境は整えていくべき課題であると考えてございます。

【___委員】先生方の負担はかなり増えていらっしゃると思います。こちらに書いてあるデジタル化とかDX化が非常に担える部分だと思いますので、御検討いただければと思います。

【会長】子育てをする家庭においては、今は保護者が共働きで、すごく忙しい家族が多くて、ワーク・ライフ・バランスと勤務先では言われていてもなかなか回らなくて、経済的には問題がなくても、子育て放棄というような状況の御家族もあるかと思います。この中でやはりこどもが安心して育つためには、職場の理解が必要だと思いますので、先ほど教育界ということを言われましたけれども、やっぱりそういう意味では経済界の御協力がないと、子育てができる環境にならないと思いますので、そこをもうちょっと視野に入れても良いんじゃないかなと思います。

【___委員】今のお話にも私もすごく賛同するところです。伊藤忠商事でしたか、村木さんが社外取締役役に就任されて、子育てに関する企業内の改革を行って、先日結果が発表されたらしいですけれど、出生率が1.97ぐらいに上がったという報告だったんですね。なので、経済界の方たちも子育てを応援していただけると、出生率自体もこんなに大きく結果として出るんだというのは、私も驚いたところなので、皆さん御存知だったかもしれないですけども共有させていただきたいと思います。

【会長】違う部分なのですがよろしいですか。2ページの基本理念の三つ目で、「誰もが生き生きと暮らせる「安心」できるまちをつくる」の下段にある、個性と魅力を伸ばす取組の方向と、3ページの同じ項目の部分はかなり重複をしているように思いますので、抽象度をちょっと変えて、あるいは表現を変えてちょっと違う言葉で書く方がよろしいかなと思います。ここは工夫をしていただけると良いように思います。

ちょっと話が戻ります。先ほども___委員からありましたが、こどもたちを全て客体にしていきますので、「こどもたちが」という主語が入るような項目がいくつかあるだけでも、大分印象は違うと思います。大人の責任という部分はもちろんあると思うんですけども、こどもたちの自発性を感じさせるような表現がいくつか入るだけでも違うかなと思いますので、その点共感する部分がありますので、御検討いただければありがたいです。

【副会長】特に少子化対応というのは、この10年が勝敗を分けるといいますか、将来をしっかりと方向付けてしまう。多分10年間のうちに少子化対応をしっかりとできないとすれば、日本はとんでもない国になってしまうということも言われているわけでありますので、そういった表現の部分は大事でございますから、今回第一にこどもを据えているのは大いに賛成であります。

ただ、おそらくこれからしっかりとした素案を作っていくということになると思いますから、その中では細かい説明を入れていくということを心がけていただけたらと思います。例えば、水戸インターチェンジ周辺に企業誘致を進めるというのは、こういう意味合いで書かれているということが分かりますが、GXやゼロカーボンシティについては、目指しますと書いてあるだけで何をやるのかは全然見えない。これは大綱ですから仕方ないと思っているのですが、素案作成に当たっては、具体的に水戸市として何に取り組むのかということが見えるような、丁寧な説明をしていただけると大変ありがたいと思います。

いずれにしても、この10年で日本の国そのものが色々な意味で大きく変化していくことだと思います。しっかりとした総合計画にさせていただければありがたいと思いますので、それは期待といいますか、注文ということをお願いしたいと思います。

【 委員】先ほど 委員と 委員がおっしゃった交通にも絡んで、5ページの人口の件です。人口が水戸市から単純に流出しているだけではなくて、日本全体で自然減的に減っていく転換期だということを前提に話をされていると思うのですが、この人口減に対して、市の捉え方が分かりづらい部分がありました。人口減が見込まれるからこそ、持続可能なコンパクトシティを作っていこうという前提に立っていると思いますが、一方5ページ目では、若い世代の移住・定住等により人口減少を抑制していくとあります。先ほど 委員もおっしゃいましたが、どこかから人を取ってこなくてはいけないというような言い方もしているところがあるので、この10年間で、市が人口減に対してどういうまちづくりをしていくかという時に、この人口減少というのはなかなか抗えないし、減っていくことを前提として、コンパクトシティにしていくのか、人口を増やしていくのか、どういうまちづくりをしていくかというメッセージをもうちょっと強めていかないと。教育の強みということで、高校とか幼稚園とか、色々なものが集積しているという強みがある一方、子どもが減少してしまうと、幼稚園とか小学校、山根とかもそうですけれど、廃校だって利用していこうということがあると思うんですが。今使っている施設が、仮に人口減で26万5,000人を維持できなかつたとしても大丈夫ですよというリアクションの施策を出していかないと、維持できなかつたら、水戸市は厳しいよねというような言い方になってしまいそうな見受け方があるので、コンパクトシティを進めていくのであれば、人口が少なくなっても大丈夫ですよというような施策をもう少し出していただいた方が、市民としてはより安心できると思います。仮に社人研に消滅可能性都市に指定されたとしても水戸市は大丈夫だと市民が思えるのか、それとも不安になってしまうのかというのは、やっぱりこの10年間の捉え方で変わってるところだと思いますので、その点を市としてどう捉えていくのかを聞かせていただきたいと思います。

【 執行機関】まず人口につきましては、人口減少の抑制というものは第一に考えてございます。その対応策としては、自然動態の部分では出生率を上げていくような施策、社会動態としては魅力を高めながら移住・定住の施策を展開するというところで、水戸の人口というものを非常に大事に考えていきたいと思っております。

その一方で、減少というのはなかなか避けられないというのも事実でございます。水戸市の出生数は現在2,000人を切っているところでございますが、死亡者数は3,000人ということで、その分の転入がなければ人口が減少していくような状況にございまして、今後厳しい部分では

あります。ただ、26万5,000人という目標人口については、施策を検討する枠組みの一つとして考えてございますので、人口減少の時代の中でも安心して暮らせる政策というものを、基本計画等の中で位置付けていくという考えでございます。

【___委員】ありがとうございました。日本全国で、人口減に頭を悩ませる自治体というのがほとんどだと思うんです。水戸市よりも小さい自治体もある中で、水戸市が率先して人口減の中でも持続可能なプランを打ち出していくことの方が、多分これから人口減で悩む自治体が増えてくる中で、そのトップを取っていくというような発想の方が、人口の奪い合いになりそうな感じがするよりは、人口減が世界的潮流になっていくという中で、人口減をどうやって楽しんでいくかというくらいの発想で施策を出していった方が、他の行政も、水戸市がやっているやり方を真似できるよねというふうに、そういう世界の流れを楽しめるんじゃないかなと思います。もちろん抑制をしていくというのは非常に重要な部分であると思うのですが、10年の基本構想の部分であるので、そういったメッセージを強めても良いのかな、尖っているのかなと個人的に思いました。

【会 長】ありがとうございます。___委員におかれましては半世紀にわたって総合計画に関わってこられたということですが、今回の総合計画は人口減少に向かっていく中で初めての総合計画ということです。1ページ目を見ると今までとそれほど変わらないような気がしますので、今までとはやはり厳しさが違うというか、あるいはトレンドが違う中でどういうまちにしていくのかということメッセージとして、新たな時代に突入しましたぐらいのものがあるのも良いのかなとも思います。先ほど___委員が言われましたように、本当にコンパクトシティというものを考えていかないと、そのつけを将来世代に残してしまうということだと思いますので、人の居住などを変えるのは非常に難しいことではありますが、そういう視点が入ったメッセージだけは送っていかないといけないのではないかなとも思います。

【___委員】資料13ページに「多くの人が集い、産業が集積する「活力あるみと」とありますけれども、3番の「都市の活力とにぎわいを支える基盤の強化」というところですが、私は現在都市核にあたる南町に住んでおりまして、半径500メートル以内に今4棟から5棟ぐらいの大規模なマンションの建築が進んでおります。

マンションに住む人たちがどんな人たちなのかというのを考えたときに、この先10年のビジョンというのが、このにぎわいですとか活力というものと一致しないように私には思っています。例えば、今若い夫婦が結婚してマンションを購入して入居した場合、10年後子どもが小学生ぐらいになって、2人目、3人目の子どもというのを考えた時に、そのマンションにそのまま居住していけるのかということを考えると、手狭になったから郊外に転居するというような選択肢があるかと思ったり、あるいは、今10歳ぐらいのお子さんがある家庭があり、その10年後となるとお子さんたちはおそらく進学とかそういったことで独立して、家を離れていくかと思ったり。あるいは定年退職をして、退職金でそのマンションを購入されたというような老夫婦が住まれた場合、さてその10年後、そこでにぎわいや活力ある生活ができるだろうかということ考えますと、10年後に私もそこに住んでいるかどうかわかりませんが、半径500メートル以内に4棟、5棟、6棟ぐらいのマンションが立ち並ぶところが、10年後に都市核の

核として、本当ににぎわいや活力があそこにあるのだろうかというのは非常に疑問に感じるところです。

それを考えた場合、行政がどうやって中心市街地、あるいは都市核というイメージと一致させていくのか、その辺のすり合わせについて非常に疑問に感じるところです。

【会長】事実本当に商店街などがなくなって、そこにマンションが建つと、人は増えますけれどもにぎわいというものはないというようなことは、非常に懸念を感じます。それでも学校に入ってくる小学生は増えないという不思議なことが起きておりますので、行政としてできることは限られているかもしれませんが、問題については共有した方が良いかなと思います。

【___委員】そうですね。ですので、水戸の中心地がにぎわいや活力をこれからの10年担っていくとは思えない中で、こういった施策のように「活力あるみと」と掲げられるということで、絵に描いた餅ではなく、実現させていくためにどうやって具体的に進めていくんですかということ質問したいと思います。お願いいたします。

【執行機関】ただいまの御質問でございますが、未来のにぎわいのイメージが見えないということでしたが、決して都市核に何もしないというお話ではないかと思えます。これまでも中心市街地の活性化、あるいは都市核の発展につきまして、基本計画等に施策を位置付けながら進めてまいりました。現時点におきましては全体の基本構想の段階でございますので、こちらにつきましても、改めまして基本計画の中で様々な御提案をさせていただくと思えますので、議論いただければと思います。

【会長】ありがとうございます。市民会館などは本当にオープンな形で提案いただいている、イベントだけではなく若者や高校生を含めて利用できそうですので、それはありがたいなと思っています。

ほかにいかがでしょうか。はい、___委員お願いいたします。

【___委員】資料1-②9ページですけれども、「自然を生かした環境負荷の少ない都市空間づくり」の中で、公共交通機関や自転車を利用しやすい環境づくりを進めると書いてあるんですけれども、四角囲みの中には、安全で快適な自転車通行空間整備を推進するとあります。三の丸地区あたりは学生が非常に多く、自転車を使用する方が非常に多いですけれども、何年前からか自動車道のところに自転車が通れるという印が見受けられます。自動車道の幅はそのまま、通れますよというマークだけしるされているんですけれども、実際見てみると非常に危ない感じなんですよね。自動車道の幅が変わらないので、その隙間というか端を自転車が通っている。自動車道を広げないと、やはり自転車通行空間というのが安全じゃないというか危険な感じがするんですけれども、空間整備を推進するというのが、実際にその自動車道を広げていくということなのか、それともまた別のことなのかお伺いしたいなと。

【執行機関】ただいまの質問でございますが、この自転車通行空間整備につきましては、必ずし

も道路を広げた部分の空間というものではなくて、今行っている矢羽根といいますか、自転車の走行できる場所を表示していく部分も含めたものでございます。

【___委員】今の自転車の話題について、私は、水戸市は全国の市町村でも結構頑張って整備されていると認識しています。水戸駅の南側の道路を1車線潰して、ゼブラつきの立派な、日本が誇るハイスペックで安全安心な自転車道を作りましたが、今は歩道をガンガン自転車が走るということで、歩行者が迷惑を被っていて、自転車は本当に行くところがなくて、暫定で車道の中に混在させているんですけれども、本来はおっしゃる通り、お金もかかるし大変ですけれども、長期ビジョンのもとで専用の空間を作る方向でやっていくということが重要だと認識しています。そうは言っても、言い出しっぺの国も暫定で車道の中に自転車用の矢印を置いて満足していて、本気ではないみたいなの。

でも水戸は、国を超えて本気でやっていくという姿勢として、国道50号だってバイパスができて交通量が減ってきているんだから、まちなかのぎわいを取り戻すのであれば、2車線あるところを1車線少し頑張って削って、道路空間の再配分と言いますが、歩行者や自転車のために再配分して専用道路を作るくらいのメッセージをここに入れたって僕は良いと思うんですけれどもね。まちなかの使い方を大転換するんだという意味では、自転車は結構重要だと思いますというのは個人的な補足です。

あと申し上げたいのは、初めてざっと読んだときに、第4が浮いている感じで、その前の第1～3と全然つながりがないように思えたんですよね。コンパクトシティの狙いとか理念は都市経営的なところで理解されてしまうかもしれませんが、それは第一義であって、教育とか子どもというところもすごく大事だと思うし、子どもへの投資というのは長期的に言うとかかなり投資効果が高いという、投資効果という言葉は悪いですけど、そういう研究成果もあるので、その辺も打ち出しながら子どもを大切にしていくというのは大賛成です。コンパクトシティも、環境や健康は当たり前ですけど、間接的には教育面でも良いことがあるし、まち全体で支えていくという時に、外に分散していくよりも集まって、親とか親戚だけじゃなくてまちの第三者的な人が見守ってみんなで育てていくとか、他者とコミュニケーションを取るというのかな。今はどんどんソロ活動が主体になっていますよね。それがさらに、バーチャル空間まで出てきて、それで良いのかという時に、やっぱりコンパクトシティというのは、そのベースとなって、リアルな、密なコミュニケーションみたいなものを取り戻す。それは教育面でも非常に重要だと思うんですよね。だから、もし第1、第2、第3で子どもについてメッセージを出すのであれば第4でもつながるように入れてもらえると良いかな。今は第4だけちょっと浮いている感じがするので、もし可能であれば改善いただければと思います。

【会長】はい。ありがとうございます。同じ感想を持ってまして、例えば資料の1-①というのが、基本構想と将来都市像と施策の大綱が入っていて、この中の将来都市像のところは第4の都市空間整備構想に相当するところかなと思うんですが、水戸らしい地域拠点のところはコンパクトシティというものが入って、全体像がこの資料1-①の部分でパッとわかるというようなものだと良いのですが、第4はちょっと乖離しているといいますか。

あと私個人的には、「共に創るみと」という位置付けですね、これは全体に関わることで、この全体像がパッと見て分かると思うんですけど、そうすると市長が言われているような、

尖ったというのがより明確になるような気がしますので、この部分をどうにかうまく1枚にまとめることができたらいかなという感想ですがいかがでしょうか。

【執行機関】今回御提示しておりますのが、基本構想の骨子という骨組みの部分でありますので、ただいまいただいた御意見のように、都市づくりの基本理念あるいは将来都市像において、子どもを大切にするというのが脈々と全体に流れているということを、次回、基本構想の肉付けをしていく中で、分かりやすくしていきたいと考えております。

また、本日、各委員さんから個別具体的な施策についても、もうちょっと位置付けたら良いのではないかという意見を多数いただきました。先ほど申し上げましたように、現時点では基本構想でございまして、その次のステップとして、この基本構想をもとに、より具体的な施策を掲げる基本計画がございまして、その基本計画の中に、本日いただいた各委員さんからの御意見も踏まえた基本計画の各種施策についても、御提示をしていきたいと考えております。以上でございます。

【___委員】先ほど人口問題も出てまいりまして、ちょっと意見というわけではございませんけれども。全体的な人口減少は避けられませんが、今選ばれるまちとすると、やはり教育、それから医療、それから働く場所とか色々な要素があると思いますけれども、こういう人口減少の中で、茨城県の中でもコンパクトシティを進めていけば、水戸はこれからチャンスが十分あると思います。県北から移住してきたり、リモートワークで東京から来たりする可能性がありますので、いかに魅力を発信していくかというのが大事かと思っておりますけれども、その中で5ページにある関係人口の定義をしっかりといただければと思います。関係人口と言うと、どういう方なのかと思うんですけども、例えば、ふるさと納税をやってくれた方とか、あるいは水戸大使って今たくさんいらっしゃいますけれども、そういった方とか。これをいかに増やしていくかというのも大事なことだと思います。

人口は26万5000人ですけれども、梅まつりといったイベント、あるいはスポーツコンベンションもやりますので、交流人口はこれからどんどん増えていくような気がいたしますけれども、この関係人口というのをどうやって増やしていくかという具体的な施策を、これから事務局の方でもやっていただきたいと思っております。離れていても常に水戸市の情報が分かる、東京都民であっても「私は水戸市民です」と胸を張って言えるような人がたくさんいるというような、今はSNS時代ですので、そういったことができるんじゃないかなと思っておりますので、具体的な施策を考えていただければという提案です。

何年前の話ですけど、岡山県のある村が木材の加工をやっている、家具などを作って、人口は数千人ですけれども、関係人口はその10倍もというようなことを聞いていましたので、この26万5000人を基本に、関係人口という定義をしっかりといただいて、我々会社もどれだけ増やすかというのが大きな課題でありますので、水戸市のファンを増やすという考え方のもとに、色々な具体策を事務局の方で作っていただこうかなと思っております。返答は結構です。

【___委員】水戸市の場合には、定住人口と昼間の人口、要するに住んでいる人と、高校や大学、職場へ近隣市町村から水戸市に来る人がいます。昔水戸市は、昼間人口が70万と言われたのですが、昼間人口に対する対応、昼間人口をいかに伸ばすかというようなリサーチがないのでは

ないかと思うのですが。昼間の人口というのは今何人ですか。

【執行期間】現在の昼間人口は29万5673人です。これが令和2年度の国勢調査の数字でございます。

【会長】ありがとうございました。では、次に移りたいと思います。資料(2)市民参加による提案提言及び職員提案について、事務局よりお願いします。

(事務局説明)

【会長】市民ですとか市職員の方々の様々な提案が出されていますので、この事業の効果ですとか優先性を勘案して評価し、具体的な施策を位置付ける基本計画にこれから反映していくこととなりますので、この議題について何かございますか。もし何もなければ先に進みたいと思います。

資料(3)水戸市第7次総合計画策定スケジュールについて、事務局より御説明をお願いします。

(事務局説明)

【会長】今年度については本日が最後で、これから意見公募を行い、5月に2回の集中審議ということになっております。

では、最後にその他について何か事務局からありますでしょうか。

【執行機関】本日の会議後の御意見についてでございますが、本日御審議いただきました基本構想・骨子「素案」をはじめ、資料等について追加の御意見等がございましたら、2月3日(金)までに、メール等で事務局宛て御連絡いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

【___委員】スケジュールについて、基本構想・骨子「素案」のパブリックコメントを3月にやるのですよね。色々な会議で申し上げているんですけど、日本のパブコメって結構形骸化してしまっているところがあるし、総合計画だからあまり誰も見てくれないというか、個別の計画でもあんまり見てもらえない状況です。

でも、今回は1万人アンケートや大学生のプレゼン、庁内の検討とかを非常に精力的に進められて、市民の方や大学生、市のスタッフの方とのチャンネルを持っているのですよね。だからこれを上手く使いつつ、最上位計画で一番重要なので、なるべく多くの方に見ていただいて、しかも理解していただくようなフォーマットとか見せ方をして、興味を持ってもらい、コメントをいただくというところまでできれば良いと思います。何となくホームページに載せて終わりというところ、コメントは少ししか来ません。良いところまで来ている感じがするので、上手いやり方をもう考えられているかもしれませんけれど、そこを少し工夫していただくと良いかなという気はしました。

【会長】 意見公募の段階でも、具体的なところにアクセスできるのであれば、そこにアクセスするというようなこともあって良いかなと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

以上で本日の議事は終了いたしました。本日もたくさんの御意見、並びに円滑な議事に御協力いただきましてありがとうございます。

では進行を事務局にお戻しいたします。

【執行機関】 以上をもちまして、第3回水戸市総合企画審議会を終了いたします。長時間にわたり御審議いただきまして、誠にありがとうございました。